

齋藤茂樹の 北関東巡り



令和4年(2022)12月17日

1

11年振りに北関東に戻ってきました。合唱の合間の週末、名所旧跡巡りをしています。

埼玉には、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の登場人物、熊谷直実、畠山重忠、比企一族などを含め、鎌倉時代初期に活躍した歴史上の人物にゆかりの地が多いですが、栃木県にも結構あります。

なすのよいち

那須与一

那須出身。京都の泉涌寺の塔頭の即成院にお墓があって何度か行きました。

11年振りに戻ってみると、道の駅那須与一の郷が出来、那須与一伝承館という博物館も作られていました。そこでは人形劇と資料で多くを学びました。那須与一は11番目の子供だったので10+1で与一と名付けられたとか。那須の殺生石近くの温泉神社に烏居を奉納した等、近隣の寺社への寄進奉納の伝説がありました。



殺生石………**松尾芭蕉**も訪れた那須の名所。**九尾の狐**^{きゅうび きつね}※の魂が封じ込められた伝説がある。ずっと以前からここまでは知っていましたし何度も訪れました。先日、訪れたところ、現地の掲示板に、九尾の狐を退治したのは大河ドラマでも登場した**上総介広常**^{かずさのすけひろつね}と**三浦義純**(義澄)と書いてありました。

※九尾の狐：平安の昔、帝の愛する妃に「玉藻の前」^{たまも}という美人がいたが、これは天竺(インド)、唐(中国)から飛来してきた九尾の狐の化身でした。帝は日に日に衰弱し床に伏せるようになり、やがて、陰陽師の安倍泰成がこれを見破り、上総介広常と三浦義純が狐を追いつめ退治したところ、狐は巨大な石に化身し毒気をふりまき、ここを通る人や家畜、鳥や獣に被害を及ぼしました。やがて、源翁和尚が一喝すると石は三つに割れて飛び散り、一つがここに残ったと言われ、その石が「殺生石」と伝えられています。



殺生石は2022年5月割れてしまいました。かつて為政者に取り憑いて悪政を行わせた九尾の狐の魂が解き放されて某国の大統領に取り憑いて戦争をはじめたのでは・・という話があります。

宇都宮頼綱

有力御家人で歌人でもあり、娘を藤原定家に嫁がせた。百人一首の由来となるエピソードあり。

塩谷朝業

宇都宮頼綱の弟、歌人でもある。源実朝とたいへん親しかった。

川崎城………栃木県矢板市に土塁や空堀や曲輪のしっかりした山城があり、近隣の町並みや山々を美しく観る事ができ、梅、桜、もみじが美しいため、頻繁に訪れています。この城の築城者は**塩谷朝業**でした。

源 頼朝

頼朝は奥州平泉を攻める際、宇都宮の**二荒山神社**^{ふたらさん}に参拝した。

間々田八幡宮……源頼朝が平泉を攻める際、ここに立ち寄り松を植えた。現存する松は三代目。



宇都宮頼綱と塩谷朝業については、平成11年(1999)にうた芝居「**歌法師 蓮生**」(宇都宮頼綱と百人一首の物語)というオペラ、合唱、演劇、民謡、バレエ、舞踊、オーケストラ、邦楽総動員の舞台が上演され、私も合唱で出演していたので詳しくなりました。もう20年以上も前の話ですがその時知り合った俳優さんとは今年賀状のやり取りをしており、先日栃木県立博物館でその舞台で一緒だったオペラ歌手のかたにお会いしました。

永井路子旧宅



栃木県の隣り、茨城県古河市の**永井路子旧宅**は一般公開されています。永井さんは現在鎌倉にお住まいとのこと。鎌倉時代の歴史小説といえば永井路子で、学生時代、一般教養課程の歴史授業の教科書は永井路子著の「炎環」でした。大河ドラマ「草燃える」の内容でしたので、よく知っていますが授業のことは教科書が「炎環」だった事以外は覚えておりません。

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る